

倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案【草案】中学校区別説明会の概要

1 説明会の構成

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 「倉吉市立小・中学校の適正配置の具体案【草案】」の説明（事務局次長）
- (3) 質疑・意見交換

2 実施状況

(1) 鴨川中学校区

- ① 日時 平成25年4月23日（木）午後7時30分～9時
- ② 場所 関金総合文化センター 大会議室
- ③ 参加者 地域住民・教職員等 35名
市教委：教育長、教育委員長、教育委員（3名）
事務局長、事務局次長、教育総務課長、生涯学習課長 等



(2) 久米中学校区

- ① 日時 平成25年5月10日（金）午後7時30分～9時
- ② 場所 久米中学校 武道館
- ③ 参加者 地域住民・教職員等 76名
市教委：教育長、教育委員（3名）
事務局長、事務局次長、教育総務課長、生涯学習課長 等



(3) 西中学校区

- ① 日時 平成25年5月14日（水）午後7時30分～9時
- ② 場所 倉吉市立西中学校
- ③ 参加者 地域住民・教職員等 56名
市教委：教育長、教育委員（3名）
事務局長、事務局次長、教育総務課長、生涯教育課長 等



(4) 東中学校区

- ① 日時 平成25年5月21日（木）午後7時30分～9時
- ② 場所 東中学校 3階多目的ホール
- ③ 参加者 地域住民・教職員等 62名
市教委：教育長、教育委員（3名）
事務局長、事務局次長、教育総務課長、生涯学習課長 等

(5) 河北中学校区

- ① 日時 平成25年5月27日（月）午後7時30分～9時
- ② 場所 河北中学校 柔剣道場
- ③ 参加者 地域住民・教職員等 21名
市教委：教育長、教育委員（3名）
事務局長、事務局次長、教育総務課長、生涯学習課長 等



3 質疑・意見交換の概要 [・：質問・意見 →：教育委員会回答]

【統合について】

- ・適正配置については、この具体案がベストだと思う。
- ・練りに練られた案だと思う。早くこの案で進めてほしい。
- ・将来地域に帰ってくる子どもたちを育てたいと考えている。まず、教育とは、また、子どもたちのためにということを経第一に考えてほしい。納得した状態で統合を進めてほしい。
- 子どもたちのためにということを考えてきた。お互いが切磋琢磨しあい、伸びていくことを一番良い教育環境と考えてきた。また、「子どもが不安にならないように」ということへの配慮もしていく。統合に向けて交流の場を設定したり、統合後に子どもたちをフォローしたりする人員の配置も考えている。
- ・この案で進んでいくことになるのであろうという予想はしていた。教育長の話から「対等合併」といった言葉を聞いて、山守の保護者は安心したのではないか。
- ・灘手小学校区で賛成という意見はない。もう少し対話をしてほしい。
- ・子どものためと説明があるが、子どもたちにとって、そこにある灘手小に通うことが幸せであるのか、20人にこだわってよその学校に通うことが幸せなのかを考えてほしい。
- スクールバス等で安全の確保等配慮していきたい。
- ・統合について、メリット・デメリットについて検討し合い落としどころを検討していくことが必要ではないか。
- 経緯として、児童数の減少があり、複式解消加配等を活用しているといった現状がある。そうした課題への根本的な解決策の一つとしての統合でもある。
- ・27年度から30年度にかけて再編を実現するのは無理ではないか。もう少したくさん機会を設定し、ディスカッション方式で検討していくといったことは計画していないか。
- 小学校区、中学校区以外にも、灘手地区の方々から呼ばれて説明し討論を重ねる機会を作ってきたという経過がある。
- ・統合前のふたつの小学校が一緒になる前に抵抗がないよう配慮してほしい。
- 統合前に、学習や活動と一緒に行動するなど、交流の機会を意図的に設け配慮したい。統合後に教員を多く配置して、心を配ることができるようにしていこうと考えている。
- ・（仲田委員）再編について、地域によって関心に温度差があると感じる。倉吉市全体のこととして考えていきたい。河北中学校区は、冷静に判断できる地域の一つであると思う。全市の話として、そういった意味での意見をどんどん聞かせてほしいし、皆に伝えてほしい。よろしくお願ひしたい。
- ・統合準備委員会の構成メンバーはどのような人たちなのか。
- 地域学校委員が中心となって、その他必要だと思われるメンバーを加えて構成していくことになる。PTA会長、地域コーディネーター等、普段から学校に関わりを持っている方々がなるケースが多い。
- ・統合準備委員会は、どういったことをもって合意形成が得られたと判断し、どなたがゴーサインを出されるのか。
- どのタイミングでゴーサインを出すのかということとはとても難しい問題である。学校ができるためには、条例改正をする必要がある。条例改正するためには学校名が決まっていなければならない。そのためには、準備委員会を立ち上げておかなければならない。教育課程や教育目標をすりあわせることを考えれば、1年から1年半は必要だろう。消費税増税等も考えるとあまり先延ばしもしていられない。27年度から30年度というのは、あくまで最短である。
- ・教育委員会が最終案を提案しなければ準備委員会が立ち上げられないのではないか。
- どこかのラインで合意形成が得られたと判断できればスタートを切れると考えている。
- ・「賛成は過半数」という解釈は、妥当なのか。灘手小や成徳小の関係者からの意見を聞く限り、実感としてとらえられない。全市民に一度アンケートをとってみるといった考えはないか。
- 「過半数」というアンケート結果の解釈は、説明会後のものである。全市民にアンケートということについては、説明なしでアンケートをとることが果たして妥当といえるだろうか。そうした市民の声は、議員が代弁するはずである。
- ・久米中学校には、部活動の種類が少なく選択肢も少ない。そのような子のためにも早く統合をしてほしい。
- ・「平成27年～30年度で段階的に行う」とあるが、住民の理解を得られた所から統合してほしい。

- ・中学校についても併せて考えていく必要はないか。
- 中学校の統廃合については、現時点は考えていない。財政的なものは、ある程度詰めた段階でないといふ具体的に示すことができない部分もある。

【統合校について】

- ・限られた予算を効率良く使うことも大切だが、小学校教育の充実を実現することを大切にしてほしい。
- ・校舎の増築は考えているか。体育館、校庭が狭くなってほしくない。
- ・統合自体は時代の流れなのではないか。しかし、敷地だけの問題ではないと思う。陸上競技場があったり、公園があったりすることを考えると、明倫小学校がベストだとは思えない。良い教育環境の考え方を聞かせてほしい。
- 成徳小学校のまわりにすばらしい教育環境があることは承知している。しかし、明倫小学校にも、森があったり、地域の方達が入って協力してくださったりといった点も、良い教育環境であると考えている。
- ・「適正規模20人」という点が、この度の再編の大きなポイントとなっていると思う。今回の説明会で様々な意見が出たが、再編のデメリットを越える「20人という適正規模のメリット」の説明が必要であると感じる。学校教育審議会ではどのような議論がなされたか知ることができないか。
- 議事録は、ホームページに掲載している。
- ・保護者の送迎の負担やクラブ活動に支障がでないようにするための、通学補助やスクールバスの運行についても検討していく必要がある。
- スクールバスや通学補助等については、検討課題としたい。
- ・小学校が地域からなくなれば、これまで以上に学校の様子が保護者や地域に伝わるための便り等、情報の発信を充実させてほしい。
- ・統合準備委員会で話を詰めていくことになるが、小学校だけでなく中学校の先生にも入ってもらい、部活動の問題解消も含めて考えていけるようにしてほしい。

【人口について】

- ・小鴨校区に人口増大がみられるがいつまで続くかというふうに、人口推計は難しい。シミュレーションを周到に行う必要がある。
- ・20名が適正規模ということがあったが、山守と関金が統合しても、この数字はすぐに割ってくると思う。この条件がすぐに崩れることを考えれば、最初から上小鴨小も合併してしまっても良いのではないか。
- ・小規模校のデメリットが取り沙汰にされることが多いような気がする。道路もできることであるし、人口については長いスパンで考えてほしい。
- ・学校がなくなると地域はさみしくなるばかりである。
- 学校がなくなっても地域の子どもたちである。ゲートボールを高齢者と一緒にしたり、食生活改善委員さんとたけのこご飯をつくって一人暮らしの高齢者に届けたりしている地域もある。地域支援ボランティアの数をみても増える傾向である。倉吉は地域の力がある。知恵をしばって考えていきたいところである。
- 地域の子どもたちは地域で育てるといった考え方や取り組みを、応援していきたい。
- ・農村体験ツアーの民泊受け入れ経験者だが、ツアーの目的としては、修学旅行を誘致したいということもある。実際にはなかなか難しいのが現実ではあるが、民泊者数は着実に増えている。
- 歴史ある学校が多数ある倉吉市で、長い歴史に幕を引くという話をするのは辛い作業でもある。27年度から30年度といった数字は最短という意味がある。そういった中で、みなさんの知恵をかりながら今後も考えていきたい。

【小中一貫教育について】

- ・小中一貫校等を考えながらの検討も加えてほしい。
- ・小中一貫校となった場合、学力面・体力面での成果は実際にどれくらいあるのか。
- ・小中一貫教育が良いことであるということだが、忙しいといわれる教師にそのような余裕が本当にあるのか。
- ・小中一貫教育のメリット、また、その教育のビジョンについて知りたい。また、そういった点を保護者にもっと知らせてほしい。

- ・今回の統合は小中一貫校という意味なのか。
- 倉吉市が鴨川中学校区、久米中学校区で考えているのは「小中一貫校」ではなく、「小中一貫教育」といった発想である。あくまでも別の学校である。効果や専門性の観点から、一部教科担任制を取り入れることによって成果をねらっている。小学校は小学校、中学校は中学校として、小中一貫教育達成への試みでもある。

【財政面について】

- ・限られた財政の中で、何をすれば存続できるのかということも考えてほしい。
- ・増築、改築という話が出ているが、今の財政で本当に実現するのか疑問。根拠あるデータを作ってほしい。
- ・スムーズに進んだ場合とそうでない場合とでは、財政上の違いがどれくらい出るのか。一つの例でも概算を教えてください。
- 耐震化については、学校によって異なるので一校あたりいくらといった数字は出しにくい。耐震化と老朽改修とをあわせて行っている関係上、さらに違いが出てくる。教職員については、県費負担の職員が多いが、市費で雇っている職員もいる。各学校にだいたい3人くらい入っているので、ざっくり3人分で500万円くらい違うと考える。運営費については一校につき2000万円くらいの額が出てくる。はっきりした数字を出すにはスクールバスの運用等もあるので、一つ一つについて検討する必要がある。
- ・今回の説明会で、財政的な部分についての説明があったことは良かった。
- ・北谷小では、耐震工事をしているところである。統合となると無駄遣いではないか。
- 北谷小学校は統合後の施設活用ということを考えると無駄にはならない。将来的には無駄にならないように活用していく必要がある。

【その他】

- ・小学校がなくなれば地区公民館もなくなるだろうと思っている。そのことも考えてほしい。
- そうであるとは考えていない。また、そういった議論はこれから必要になるかもしれない。
- 学校教育審議会の中で、これまでも議論をしている。さまざまな条件をふまえ、倉吉の教育をどうするべきなのかということを考えてきた。どうすれば灘手小は残せるのかという気持ちはわかるが、なかなか難しい。灘手のみなさんが灘手の子どもたちを大切に思っている姿を見るにつけ、灘手の子どもたちを地域で育てていく力を持った地域であると思う。
- ・再編対象小学校区での説明会が予定されているが、河北小学校は対象ではない。そこでは、より具体的な説明がなされるのか。
- 週1回のペースで、説明会をしてきている。記録をまとめる作業等なかなかまわらないので対象外の小学校区では予定していない。どこまで出せるかはわからないが、数字も出して説明していくことになると思う。
- 住民投票してみてもどうかという意見をいただいたこともあった。悩むところではあるが、説明をさせていただいた上での意見を伺う、アンケートをとらせてもらう等の必要があると考える。市長も、学校再編については、ある程度の方向性を持って進めようとしている。
- ・（藤田委員長職務代行者）「なぜ20人が適正規模なのか」という話が出るが、自分を振り返ってみると、たくさんの人たちと出会って、自分の能力を知ることでもでき、社会に生かせる自分の特性に気づくことが、ある程度の規模があるからこそできたと思う。友だちの優れた点を見ることによって刺激を受け、努力もすることができると思う。ある程度の人数は必要なのだと思う。
- 財政的なことを考えると、国の借金は昨年度末の段階で1090兆円ある。この借金を払うことができるかということ、ここ20年を考えるとそれは無理である。この借金を将来的に払うのは、今の子どもたちであると考えられる。国の財政がしぼられてくることは容易に推察でき、さらにそれは、県、市へと影響を与えるだろう。潤沢な教育予算は今後期待することはできないかもしれない。みなさんのご理解をいただき、早い段階で準備委員会ができたらいと思う。
- ・（宮近教育委員）地域は大切である。さらに倉吉市を、鳥取県を、日本を、世界をというふうに視野を広げていく必要がある。この再編案は、正しいものであるし、良い方向へ進んでいると思っている。みなさんの理解を得られるよう説明会を重ねていきたい。